発行日：2014 年 8 月 11 日
発行　：公益社団法人 Civic Force
〒102-0074　東京都千代田区九段南
4-7-16　市ヶ谷 KT ビル 8 階
TEL　：03-5213-4930
e-mail ：info@civic-force.org
URL　：http://www.civic-force.org

CIVIC FORCE

# Monthly Report vol.41

宮城県気仙沼市で開催された気仙沼みなとまつりには 2 日間で約 6 万 8,000 人が訪れました。写真は、七福神の張り子を飾り付けた宝船の舞台で太鼓を演奏する「海上うんづら」。「うんづら」は「運を連ねる」が語源。昨年は復旧工事で実施されず、今回、3 年ぶりに復活しました　　©気仙沼プラザホテル

## 被災地の夏

東日本大震災から3年と5カ月。東北地方では、ようやく7月下旬に梅雨明けし、発災から4度目の夏を迎えました。全国各地で夏祭りなどのイベントが開催されるなか、被災した東北でも地域に伝わる個性豊かな祭りが各地で開かれています。

シビックフォースが事務所を置く宮城県気仙沼市でも8月2、3日、第63回気仙沼みなとまつりが開催され、地元の人々をはじめ多くの観光客が集まりました。一昨年に復活した気仙沼みなとまつりは、東日本大震災発生後、震災月命日の11日に合わせて開催されていましたが、今年は震災前に実施していた8月の最初の週末に戻す形で開催。山車（だし）や神輿（みこし）が練り歩く街頭パレード、恒例の「はまらいんや踊り」、夜の海上行事として定着した「海上うんづら」、打ち上げ花火など、華やかな催しに街が活気づきました。

また、夏は、旅行会社やNPOが主催する被災地ボランティアバスツアーなどの企画が増加します。震災から時間が経つにつれ、被災地を訪れる人が減り、また被災した人々の間にも疲れが見え始めるなか、さまざまな地域の課題を、地元の人々自身の力でどのように解決していけるかが問われています。

今月のマンスリーレポートでは、シビックフォースのパートナー団体「オールラウンドヘリコプター（ARH）」が、介護施設の職員や学校の教員など地域住民を対象に7月から開始した応急手当講習会についての報告や宮城県漁業協同組合との協定締結などについてお伝えします。ARHの拠点である宮城県気仙沼市は、過疎や高齢化の課題を抱え、特に医師不足や医療機関の少なさが深刻で、地域住民の医療へのアクセスの悪さや医師の負担軽減が重要課題となっています。6月と7月には、医療機関から要請を受けて医師の医療機関間での搬送を実現しました。ARHの取り組みは、医師不足を抱える地域の課題に向き合うプロジェクトの一つとして注目を集めています。

また、今月号で7月に岩手県宮古市で開催した「夢を応援プロジェクト」の奨学生向け交流イベントについて報告します。

なお、7月末、宮城県気仙沼市観光課の畠山幹司さんが他界されました。お悔み申し上げるとともに、追悼の意を表します。

# Monthly Topics

Civic Force の複数の事業の中から、注目のトピックをお知らせします。

## 福祉施設や学校で救急講習を実施

シビックフォースのパートナー団体「オールラウンドヘリコプター（ARH）」は、日本では特別な移動手段としてのイメージが強いヘリコプターを、社会のさまざまな場面で有効活用することで、より良い社会づくりに貢献するNPOです。ヘリコプターで地域医療体制の向上を目指すだけでなく、いざというときの救命率を上げるためのさまざまな取り組みを始めています。

7月2日、南三陸町の介護老人ホームで介護福祉士や事務職員など15人を対象に、AED（自動体外式除細動器）の使い方を伝えました。

また、7月18日には、気仙沼中学校で、教員向けの救急講習を実施。救急の現場で対応できる人材育成の機会を増やしています。

## 宮城県漁業協同組合と協定締結

ARHは、7月31日、宮城県漁業協同組合（JFみやぎ）と「回転翼航空機の利活用に関する協定」を締結しました。この協定は宮城県北部沿岸地域で海難事故などが起きた際、双方で協力して情報収集や捜索を行い、地域の防災や発展に寄与することが目的です。

気仙沼市は、漁業が盛んな一方、海難事故などが発生しているため、ARHは協定を通じてヘリコプターを活用し、同地域における海難事故の初動に迅速に対応します。

なお、ARHではこれまでに気仙沼市、南三陸町、石巻赤十字病院、気仙沼市立本吉病院、気仙沼市立病院、社団医療法人啓愛会、社会福祉法人美楽会、石巻市の福祉タクシー会社と協定を締結し災害時などの緊急時に備えています。

## 急患のもとへ医師を搬送

ARHは、7月6日、仙台から南三陸町に医師を派遣しました。この日、仙台にいた南三陸町の医師から「受け持っている患者の容態が悪化したため、すぐに南三陸へ戻らなければならない」との要請を受け搬送。医師不足に悩むこの地域では、これまで医師が休みの日でも地域を離れることができず、その負担軽減が課題となっています。

ARHでは、患者搬送だけでなく、このような医師搬送も積極的に行い、地域医療体制の向上に役立てるような活動を続けていく予定です。

これまでの出動実績については左記をご参照ください。

### ARHの出動実績（2013年10月以降）

《2013年》12/16 気仙沼から石巻へ患者を搬送
《2014年》3/21 気仙沼・室根地域雪害調査
4/3 チリ地震を受けて津波警戒出動
6/10 岩手県水沢市から宮城県・南三陸町に医師を搬送
6/16 仙台から気仙沼へ医師を搬送
6/26 南三陸町から岩手県奥州市へ患者搬送
7/2 南三陸町から奥州市へ患者を搬送
7/6 仙台から南三陸町へ医師を搬送
8/1 南三陸町から岩手県奥州市へ患者搬送

※2014年6月から facebook の専用ページで、運航状況を毎日お知らせしています。

https://www.facebook.com/ARH.unko?skip_nax_wizard=true&ref_type=logout_gear

## 介護施設と患者搬送訓練を実施

南三陸町の介護老人保健施設「ハイム・メアーズ」とARHは、7月22日、協同で患者搬送の訓練を実施しました。施設の入所者がクモ膜下出血の疑いで、早急に高度医療機関への搬送が必要となったことを想定して行われ、スタッフの緊急時の動きを確認しました。また、8月5日、協定を締結している南三陸町で離着陸訓練を実施しました。

ARHでは、日頃から顔の見える関係を構築することで、いざというとき、スムーズに患者の引き継ぎから搬送までを実施できるようさまざまな訓練を続けています。

## 岩手県宮古市で奨学生向け交流会開催

東日本大震災で被災した岩手・宮城・福島県の学生を、奨学金とサポートプログラムで支援する「夢を応援プロジェクト」。奨学生同士の交流の場を提供しようと、7月20日、岩手県宮古市で交流会を開催し、高校生、大学生合わせて5人が参加しました。

第1部では、ペアになった相手を紹介する「他己紹介」や、「人生でやりたい100のリストづくり」のワークショップを実施。「好きなバンドのライブに行きたい」「海外留学したい」などそれぞれの叶えたい夢を共有し、お互いを知る機会となりました。

第2部では、「夢を応援基金」を創設した株式会社ローソンの担当者が、就職活動に対する心構えや企業が求める人材像について説明。奨学生からは、企業の考え方を知り、就職活動に対する意欲がわいた」などと感想が寄せられました。

# 追悼 畠山幹司 さん

## 魅力的な街を目指して

去る7月31日、病気療養中だった畠山幹司さんが他界されました。畠山さんは、生前、宮城県気仙沼市役所に勤め、東日本大震災後、市内外の多くの人とかかわりながら、気仙沼の観光復興に大きく貢献されてきました。

2011年3月11日の東日本大震災は、未曾有の被害を出し、気仙沼市でも、死者・行方不明者合わせて1300人以上、現在も多くの人が避難生活を送っています。こうしたなか、気仙沼市は「気仙沼市震災復興計画」の重点事業の一つに「観光」を挙げ、震災を「再生」の機会ととらえ、観光を真の基幹産業に育てていこうと決意。震災から3年以上を経て、官民連携型の観光ツアーや朝市のイベントなど気仙沼ならではの観光イベントの開催が実現しています。

こうした場には、いつも畠山さんの姿がありました。市役所職員として市内の観光業関係者や外部のアドバイザーなどとの幅広いネットワークを持ちつつ、気仙沼の復興にかかわる人を、立場を超えて励ましてきました。当初から気仙沼の観光の取り組みを応援してきたシビックフォースの活動も、畠山さんなくしては実現できませんでした。

畠山さんは、生前、「震災を機にできたボランティアとのつながりをはじめ多様なリソースをいかに組み合わせ、魅力的なまちにしていくのかが重要。やらなければならないことが山積みで、気が遠くなってしまうこともあるが、なんとかもう少し皆さんの力を借りながら踏ん張りたい」と話してくれました。

畠山さんの気さくな人柄にたくさんの人が支えられてきました。これからも畠山さんの遺志を継いで気仙沼の復興に貢献する人たちを応援していきます。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

---

2014 年 8 月 11 日現在実施中の東北支援事業の一部をご報告します。

### 中長期復興支援事業

Civic Force では、支援活動の中で見えてきた被災地の課題解決に向けて、2012 年夏から「中長期復興支援事業」を続けてきました。各事業の進捗状況をご報告します。なお、本事業の一部は 8 月末で終了または支援方法の変更を予定しています。詳細は随時お知らせします。http://www.civic-force.org/emergency/higashinihon/choki/

**■観光再生プロジェクト**
**～“訪れたいまち”に向けた官民協働の仕組みづくり**
宮城県気仙沼市が復興重点事項に掲げる“観光”の戦略立案をサポート。2013 年 7 月に一般社団法人「リアス観光創造プラットフォーム」の立ち上げに参画。現在 HP 制作、理事会や部会への参加などを通じて継続支援中

**■命をつなぐ翼プロジェクト**
**～ヘリを活用した緊急医療搬送支援**
震災以前から医療過疎が進む沿岸被災地で、医療搬送用ヘリを導入し、高度医療機関へのアクセス改善を目指す。2013 年 10 月の本格運航開始後、要請に応じて患者を搬送。行政と連携した防災訓練のほか、より多くの医療機関などと連携体制を構築できるよう調整中。詳細は P.2 参照

**■緑の“環（わ）”プロジェクト**
**～持続可能な林業と木質バイオマス活用を通じて地域を活性化**
木質バイオマスの利用を通じて持続的な社会の構築を目指すプログラム。地元企業や NPO と協力し、個人林業者の育成や木材集積場の運営、地域通貨の試験的利用の面でサポート

**■共“還（きょうかん）”まちづくりプロジェクト**
**～地域発・住まいとしごとの創造的復興チャレンジ支援**
被災地で生まれた NPO や自治体と協力し、地域の新しいまちづくりや、これからまちづくりを進めていく地域で専門家派遣や人材育成などを支援

**■夢を応援プロジェクト**
**～奨学金 × 地域発の教育プログラムで若者サポート**
東日本大震災の影響で就学継続が困難な状況にある被災地の高校生が社会人になるまで、月 3 万円の奨学金を給付。今夏、社会起業家・NPO 研修や奨学生交流会を予定

### NPO パートナー協働事業

被災した人々が地域の復興に向けて主体的に取り組む事業をサポートしています。
2011 年 4 月からこれまでに 37 団体と 49 事業を実施。2014 年 8 月現在、2 件の事業を展開中です。
http://www.civic-force.org/emergency/higashinihon/npo/

■リアス観光創造プラットフォーム：気仙沼市の観光戦略を具現化するため、パイロット事業などを実施中
■nina 神石高原：福島の被災者に対し広島県への集団避難と移転先でのコミュニティ維持再生を支援

東北支援 NOW

# お知らせ

## フィリピン台風支援 アライアンス3万ドル

7月15日に発生した台風9号により、フィリピンのルソン島で死者・行方不明者100人以上、負傷者630人以上、家の全・半壊5700世帯もの被害が出ています。昨年、台風ハイエンの被害を受けたサマール島でもインフラや農業への被害が報告されています。

フィリピンの災害支援NGO「CDRC(Citizens' Disaster Response Center)」は、発災直後から被災地のニーズを調査し、アジアパシフィックアライアンスに緊急支援の声明を出しました。これを受けアライアンスは3万ドルの支援を決定。CDRCは地域支部である「TABI(Tarabang para sa Bicol, Inc.)」と協力して、ルソン島東南部ソルソゴン州の6地区で1000世帯に緊急支援物資を配布しました。

## 広報・渉外担当を募集

シビックフォースでは8月中旬まで、広報・渉外担当者を募集しています。詳細はホームページを参照ください。
https://www.civic-force.org/news/news-1395.php
お問い合わせは、recruit@civic-force.org まで。

## スマホで簡単募金 アプリの配布実施中

月々の携帯電話の利用料金の支払いと一緒に寄付できるソフトバンクモバイルの「かざして募金」。100円から気軽に寄付でき、毎月定額寄付も可能です。

6月からiOSアプリの配布(無料)が始まり、合わせて「かざして募金」登録団体に総額150万円を寄付する「ハートラッピングプロジェクト」(9月30日まで)が実施されています。寄付回数に応じて、ソフトバンクモバイルが追加で登録団体に寄付す追加で登録団体に寄付する取り組みです。

皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。アプリの使い方に関する詳細は左記のとおり。

### アプリの使い方

①スマートフォンから「かざして募金」のアプリをダウンロード

↓

②アプリを起動し、シビックフォースのロゴ画像にかざす

CIVIC FORCE

↓

③寄付金額の単位は 100 円、500 円、1,000 円、3,000円、5,000円、10,000円。設定金額から選択し、確認ボタンをクリック。

↓

寄付完了！

スマートフォンを使用した募金のプラットフォームは日本初の試み。アプリのリリースによって、ソフトバンクモバイル以外の方も気軽に募金できるようになりました。

## 1日1回1クリック

1日1回1クリックするだけでできる社会貢献があります。現在、各企業様のご協力により左記のURLから気軽にクリック募金ができます。

■ユナイテッドピープル基金
http://www.clickbokin.ekokoro.jp/139.html

■PSCクリック募金
http://www.psc-inc.co.jp/clickdonation/index.html

■「gooddo(グッドゥ)」
http://bit.ly/17Xr7N3

■ECナビ クリック募金
http://point.ecnavi.jp/fund/bc/

※毎月11日前後に発行しているマンスリー・レポートは、http://civic-force.org/news/monthly/ からご覧いただけます。

CHECK!!

https://twitter.com/civicforce

http://www.youtube.com/civicforceorg

https://www.facebook.com/civicforce

http://www.civic-force.org/mailmag/

## 「次への備え」を皆様とともに

シビックフォースでは現在、次の大規模災害発生に備え、平時からより多様な企業や団体との連携関係の構築に努めています。法人賛助会員として次の災害に向けた「備え」の活動を、一緒に支えてください。
http://www.civic-force.org/about/membership/

## 1日33円からできること

次の大規模災害に向け、平時から備えておくために、皆様の力が必要です。マンスリーサポーターとして、毎月定額(1000円単位)をご寄付いただく形で、大規模災害にともに備えてください。

■銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964

■ゆうちょ：00140-6-361805
(上記いずれも口座名義は「コウエキシャダンホウジン シビックフォース」です)

■クレジットカード：HP「オンライン募金」をクリックしてください。
https://bokinchan2.com/civicforce/donation/bokin/page1.php?bokin_type=donation